

第 1 回 豊田市教育行政計画審議会 会議録

【日 時】 令和 6 年 7 月 22 日（月） 午後 1 時 30 分から午後 3 時 20 分

【場 所】 豊田市役所東庁舎 6 階 教育委員会会議室

【出席者】

（委 員）

井村 美穂	（NPO 法人子どもの国 理事長）	
遠藤 仁菜	（日本福祉大学 学生）	
大江 香織	（株式会社ハイパーブレイン 教育DX推進部 取締役部長）	
加藤 章	（豊田市区長会 理事）	
加藤 智和	（豊田市こども・若者総合相談センター センター長）	
木浦 敦	（豊田市PTA連絡協議会 副会長）	
櫻井 直輝	（放送大学教養学部 准教授）	
鈴木 智子	（地域学校共働本部 コーディネーター）	
野崎 典子	（市民公募委員）	
野田 敦敬	（愛知教育大学 学長）	《会長》
羽根田 修	（豊田市小中学校長会 会長）	
牧野 篤	（東京大学大学院教育学研究科 教授）	《副会長》
松野 絵里	（市民公募委員）	
吉田 修	（豊田市小中学校長会 豊田市へき地・小規模校特別委員会 副委員長）	
若子 理恵	（豊田市こども発達センター センター長）	

（計 15 名）

（事務局）

山本 浩司	（豊田市教育委員会 教育長）
中垣 秋紀	（豊田市教育委員会 教育部長）
竹内 寧	（豊田市役所 こども・若者部長）
小澤 真里	（豊田市役所 生涯活躍部長代理 市民活躍支援課長）
熊谷 明典	（豊田市教育委員会 教育部副部長）
杉山 和弘	（豊田市教育委員会 教育監）
岩月 一裕	（豊田市教育委員会 教育政策課長）
千賀 美穂	（豊田市教育委員会 教育政策課 副課長）
柴田 賢人	（豊田市教育委員会 教育政策課 担当長）
松岡 香織	（豊田市教育委員会 教育政策課 担当長）
木戸 峻人	（豊田市教育委員会 教育政策課 主査）

【傍聴者】 1 名

- 【議 事】
- 1 委嘱状の交付
 - 2 教育長あいさつ
 - 3 委員自己紹介
 - 4 会長・副会長の選任
 - 5 会長・副会長あいさつ
 - 6 諮 問
 - 7 会議録署名者の指名
 - 8 議 題
 - (1) 豊田市教育行政計画等の概要について
 - (2) 策定スケジュールについて
 - (3) 教育に関するアンケート調査について
 - 9 その他

開会

事務局

ただ今から第1回豊田市教育行政計画審議会を開催します。

この審議会は原則公開としています。また、会議録につきましても、市民の皆様がご覧いただけるように、市のホームページに掲載しますので、ご承知おきください。本日は傍聴される方が1名いらっしゃいます。

1 委嘱状の交付

事務局

委員の皆様へ委嘱状の交付をいたします。

お時間の都合上、代表の方にお受け取りいただきたいと思います。

名簿の一番最初の井村様にお願いします。

教育長

(委嘱状朗読)

事務局

ありがとうございました。

その他の委員の皆様には、机上の封筒の中に委嘱状を入れておりますので、ご確認をお願いします。

2 教育長あいさつ

事務局

豊田市教育委員会の山本教育長からごあいさつを申し上げます。

教育長

皆様こんにちは。猛暑の中、また、ご多用の中、ご参集いただきありがとうございます。また、豊田市教育行政計画審議会委員にご就任いただき、厚く御礼申し上げます。

豊田市には104校、学校がありますが、4月から50校ぐらい学校訪問をさせていただいています。新型コロナウイルス感染症があけて、各校が学校の在り方を模索していると感じることが多くありました。まずは、子どもたちの命や健康安全を最優先に考えつつ、学校の教育活動をすすめてまいりたいと考えています。

今回の教育行政計画審議会は学識経験者、関係団体の代表者、市民公募委員の合計16名で構成をさせていただいています。

前回の計画策定時の審議会よりも3名多くの委員の皆様をお願いをいたしました。様々な分野・立場からお考えを伺い、社会や教育の変化を捉えて的確に計画を策定したいという思いからです。

教育行政計画は、教育基本法に基づき国が策定する教育振興基本計画を参酌し、地域の実情に応じて市町村が定めることが努力義務として同法に規定されています。

本市ではこの規定が制定される前、平成15年から策定してきました。

今回は、現計画（第4次教育行政計画）が令和7年度末で計画期間が終了することから、次期計画を2か年かけて策定する予定となっております。

市の総合的な計画である第9次総合計画や、教育施策の基本的な方針として市長が定める豊田市教育大綱との整合を図りながら、取り組んでいきたいと考えています。

委員の皆様には、それぞれのお立場からご意見をいただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局

ありがとうございました。

続いて、事務局の紹介をします。

（事務局自己紹介）

3 委員自己紹介

事務局

委員の皆様にご自己紹介をお願いしたいと思います。

お手元の名簿順に井村委員から、お名前と所属と一言をお願いします。

各委員

（委員自己紹介）

事務局

ありがとうございました。

本日は委員の16名のうち15名の方にご出席いただいております。豊田市教育委員会附属機関規則の規定により、半数以上の方が出席されていますので、本日の会議が成立しましたことを報告させていただきます。

4 会長・副会長の選任

事務局

会長及び副会長の選出を行います。

教育委員会附属機関規則には「審議会に会長及び副会長を置く」とあり、その選出方法は、委員の互選によることになっています。

会長及び副会長の互選にあたり、委員の皆様からご推薦はありますか。

羽根田委員

会長には野田委員、副会長には牧野委員を推薦いたします。

事務局

ありがとうございます。会長には野田敦敬委員、副会長には牧野篤委員をご推薦いただきましたが、ご異議はありませんでしょうか。

各委員

（異議なし）

事務局

ありがとうございました。

ご承認をいただきましたので、会長は野田委員、副会長は牧野委員に決定いたしました。

5 会長・副会長あいさつ

事務局

会長の野田委員よりごあいさつをいただきます。

野田会長

よろしくお願いいたします。令和2～3年度の4次の計画策定時も座長をさせていただきました。当時はコロナ禍の中でなかなか集まることができず、オンラインを利用して検討を進めてまいりました。

社会状況、学校を取り巻く状況も変化の激しい時代ですので、この計画も柔軟に考えていかなければならないと考えております。

委員の皆様には、ぜひ建設的な意見をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

事務局 ありがとうございました。

続いて、副会長の牧野委員よりごあいさつをいただきたいと思います。

牧野副会長 よろしくお願いいたします。この審議会の委員の再任は4人で、私もその1人です。

私の専門は、社会教育、生涯学習で、人生100年を生きる時代において、どのような学びのあり方があるか、人生の設計の仕方があるかについて、考えておりますので、そういう観点からお話ができばと考えております。

できるだけ自由闊達に話ができると、より良いものができあがっていくと思いますので、よろしくお願いいたします。

事務局 ありがとうございました。

6 諮問

事務局 本審議会に豊田市教育委員会から諮問をさせていただきます。山本教育長から野田会長へ諮問書を提出させていただきます。

山本教育長 （野田会長へ諮問書を手渡し）

事務局 ありがとうございました。

ここからの議事進行については、野田会長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

7 会議録署名者の指名

野田会長 ただ今の諮問を受け、スムーズに議事進行をしていきたいと思いますので、皆様方のご協力をお願いいたします。

会議録署名者の指名を行います。

「豊田市教育行政計画審議会及び部会の会議の傍聴及び会議録の公開に関する要綱」に基づき、会議録を作成したときは、「会長及び会長が指名した者の代表署名をとる」ことになっています。

そこで、私から署名者を指名します。名簿の順で井村委員を指名いたしますので、よろしくお願いいたします。

井村委員 承知しました。

8 議題

(1) 教育行政計画の概要について

野田会長 議事に入ります。

本審議会は今回が第1回ですので、委員の皆様にご共通認識を持っていただくために、議題にあります「(1) 豊田市教育行政計画等の概要について」を協議したいと思います。

事務局より説明をお願いします。

事務局 (資料3～6ページを説明)

野田会長 ただ今の説明について、ご意見・ご質問がありますか。

A 委員 P3で、計画の位置付けとして、文化、スポーツ、幼児教育、成人の社会教育の各分野について範囲外とありますが、幼児教育と小学校が分断されていることに不安を感じています。幼児期において、一人遊びや、集団の中で協調性や他者に対する思いやりを学び、その上にあっての小学校教育と思います。なぜこのような形になったのかお教えてください。

B 委員 P4の(仮)第5次計画で社会教育は範囲内とありますが、あわせて経緯を教えてください。

事務局 幼児教育、子どもの権利などは、こども・若者総合計画でとりあげます。なお、分断というより、教育行政計画とこども・若者総合計画は情報共有をして連携して進めていきたいと考えています。

社会教育分野については、第4次計画では範囲外としましたが、国の教育振興基本計画でも学校外の多様な担い手、学びの提供がうたわれています。地域学校共働本部が新しくできていて、地域の担い手を掘り起こして、学校だけでなく地域と合わせて子どもたちを育てていくことを想定し、いろいろな学びの場を提供していく必要があると考えています。社会教育でそういう人を育てていくことが必要となってきますので、そういった意味も含めて、計画の中に含めていきたいと考えています。

野田会長 私も、幼児教育から社会教育までの連携は非常に重要と考えます。こども・若者総合計画に反映していくということでしょう。

社会教育は状況が変わっているのではということでしょうか。

こども・若者部長 幼児教育については、(仮)豊田市こども・若者総合計画で策定しています。19日から計画のパブリック・コメントを実施していますので、幼児教育について、ご意見をいただければと思います。

野田会長 ご意見をお聞きしていますと、「多様な」がキーワードになっている印象があります。

では、議題「(1) 豊田市教育行政計画等の概要について」、ご異議ありませんでしょうか。

各委員 (異議なし)

(2) 策定スケジュールについて

野田会長 議題「(2) 策定スケジュールについて」、事務局より説明をお願いします。

事務局 (資料7～8ページを説明)

野田会長 策定スケジュールについて、ご意見・ご質問がありますか。

今年度は、アンケートを実施して分析し実態を把握していくことが中心になると思います。

C 委員 いかがでしょうか。

C 委員

大丈夫です。

野田会長

大きなスケジュールは前回と変わっていないですね。

事務局

はい、前回の流れと同様です。

野田会長

特にご意見がないようですので、この流れで進めたいと思います。

(3) 教育に関するアンケート調査について

野田会長

議題「(3) 教育に関するアンケート調査について」を協議したいと思います。
事務局より説明をお願いします。

事務局

(資料 9～13 ページ等を説明)

野田会長

ただ今の説明について、ご意見・ご質問がありますか。

D 委員

教育の方向性について、重点的に育てたい子どもたちの資質能力のところに、課題発見・解決力とありますので、中学 2 年生の間 6 でも、「問題を見つけて解決する力」という選択肢があればよいかと思いました。

事務局

全体を確認しまして、該当する選択肢がなければ加えていきたいと思います。

E 委員

P27 問 7 学校でどのようなことを学びたいかという質問について、「プログラミングなどの ICT 教育」とあります。市民向けはこれでもよいかもしれませんが、小中学校では「プログラミング」と「ICT 教育」は狭義でイコールではありません。学校で一人 1 台を使っているいろんな意見発表していく「ICT 教育」と、「プログラミング」が子どもたちにとって同じものではなくっており、文言のご検討をお願いします。

野田会長

学習指導要領に「プログラミング教育」が位置づけられていることからと、推察しますが、いかがでしょうか。

事務局

市民向けはわかりやすく、記載したいと考えています。

実際の学校現場の違和感も含めて、教育センターの担当者と検討します。

野田会長

探究も含めて、自分たちで端末を使って検索するなどしているので、そういうところも含めてのことだと思います。

F 委員

自分にはいいところがあるかを尋ねる質問に、賛成します。日ごろ、子どもたちと接する中で、短所はすぐ思いつくが、長所が思いつかないことや、あるけれども人と比較をして長所といえるだろうかと考えているところもあるので、この指標の数値がどんどん上がっていくといいなと思うので、この設定は大賛成です。

なお、選択肢が「あてはまる」「あてはまらない」などとしていますが、「あると思う」とした方が答えやすいと思います。

野田会長

確かに、「ある」「どちらかといえばある」などとした方が、わかりやすいと思います。

事務局

ご提案の方がわかりやすいと思いますので、その方向で考えます。

野田会長

このアンケートで、学校関係の回答率はかなり高くできると思いますが、市民の回答率はいかがでしょうか。

事務局

前回の市民回答率は 51.4% で、郵送法では、比較的高いと考えています。

昨年度のアンケートをみると、Web 回答にしたところ、保護者の回答率が低くなっています。保護者の回答率は前回と比べてやや下がるかもしれないと考えています。

野田会長

他市でも web で回答は、回答率が低いようです。

外国籍が 185 人とありますが、全体の何%でしょうか？

事務局

市民の比率と同様に送付を予定しています。

言語は、英語、中国語、ポルトガル語を準備します。

B 委員

調査期間について、学校関連の 8/16～9/10 は決定でしょうか。

周知が休み中ということについて、出校日にどれだけ確認できるかわからないです。出校日に欠席すると 9/2 に渡すことになります。夏休み中に欠校日がない学校もあり、回答できるか心配です。さらに、本中学校では 9/9～11 が前期の期末テストなので、中学生の回答率も落ちる心配があります。変更できるのであれば、期間を延ばした方が回答率が高くなると思います。

野田会長

お話をお聞きますと、スケジュールが厳しいかと思います。

事務局

スケジュールについて、検討します。

G 委員

自分には良いところがあるかを尋ねる質問がありますが、この質問だけですと、自分の良いところを見つける手掛かりがありません。

どのようなところがよいと考えているか、具体的に質問してはいかがでしょうか。自己肯定感の形成の仕方、何で自分の価値を測っているのか、その種類にも重視していくと良いのではないかと感じました。

野田会長

良いところについて、人付き合い、性格などを選択肢にすることもできますが、それ以外を考えなくなってしまう恐れもあります。

事務局

具体的な良いところを答える質問を設けて、勉強、人付き合い、運動などの選択肢を入れてはというご提案をいただきました。設問数や、こども・若者総合計画のアンケート・全国学習状況調査との兼ね合いも含めて検討します。

野田会長

それでは、アンケートについて、回答者の負担が重くなりすぎないように留意するとともに、意見のあった質問は検討していただくということで、おおむね承認でよろしいでしょうか。

委員

(異議なし)

(4) 教育行政計画について

野田会長

全体でご意見ご質問はございますか。

H 委員

今回、教育行政計画として、枠がきっちりつくられています。豊田市の教育行政計画は、市の教育大綱の具体の行動計画という位置付けにありますので、教育基本法上の教育振興基本計画としてよいかは議論があるところだと思います。

国の第 4 期教育振興基本計画の策定に携わりましたが、予測困難な社会の中、行政計画として計画が立てられるのかが議論になりました。その結果、構成を新しく組み換えて、羅針盤として作成しています。また、方向性を示すのですが、達成度を書き込めないのではという議論から始まっています。予測困難な時代における教育の方向性を示すという位置づけで、教育が社会をけん引する駆動力であり、社会を引っ張っていかないと、この社会の底が抜けそうということをいっています。その上でコンセプトが書かれていて、大きな方向性がでてきて、16

項目において政策の目標がつくられています。

このようなことから、市の計画をどのように考えたら良いのか議論をした方がよいのではと受け止めています。社会が大きく変化をしてきていて、ある意味、予測がつかない社会と言われる中で、計画を立てられるのか、行政計画として教育振興基本計画を考えてよいのかというところを議論した方がよいと思います。

アンケートは現状把握を中心になると思いますが、豊田市の第9次の総合計画は未来志向で、子ども視点で考えていくことを示しています。価値や理念の問題であって目標の達成という視点ではないということです。方向性や理念や価値というものをどう見ながらこの社会を作っていくか。また、どう担い手を育成していくのかですが、国の振興基本計画では、教育の担い手という言葉は利用せず、創り手としています。大人たちがつくった社会を担わせるのではなく、子どもたちがつくっていかねばならなくなっているということです。子どもたちが100年生きる、将来を展望できるようにするために、豊田市の教育をどう考えるのか、この計画をどのように位置づけるのかが問われていると思います。いろいろな委員の方にご意見を伺えればと思います。

野田会長 社会の変化が激しい中、枠を作っても入りきらないのが現状というご意見です。方向性を確認するという観点では、名古屋市は「学びのコンパス」として提示をしています。

I 委員 小原に住んでいますが、少子高齢化の中で、地域と共働することを考えると、それぞれの地域で考え方が違うと思います。地域愛をどう醸成していくかについて、小原ではどういう教育を子どもたちに与えていくかを考えるべきで、市の全体計画の中で画一的に設定していくのは良いと思いません。それぞれの地域にあった教育のあり方は当然あるので、そこを考慮していただきたい。

野田会長 確かに、「多様な」という視点が結構入ってきていて、そういう進め方を考えていく必要があります。

E 委員 G I G Aスクール構想により、1人1台端末の環境で全国の小中学生は授業を受けています。先生方の負担を抑えながら進めていて、豊田市はうまくいっていると思います。

「多様な」がキーワードになっていますが、多様性を引き出すときに、1人の先生が30人を見るのが難しく、1人1人にあった個別最適な教育などは、人の力では限界があるので、ICTを活用してそれを実現していくのが前提になるのではないかと思います。ICTはインフラ、インターネットが通じればいいわけではありません。通信量の確保、校務と学習のシステム間の行き来をスムーズにすることなど、さらに投資を行い、豊田市が全国の先進となるICTの基盤が作れるとよいかと思います。多様な地域、人、国籍によって、違う学習を進めるために、ICTは効果的と考えます。

野田会長 ICTは文房具といえるでしょう。5ページにはICTが入っていますね。愛知県内では春日井市が注目されています。

J 委員 子ども基点でということですが、アンケート調査の配布数をみると、子どもが少なく、大人中心の意見になりがちなのかなと思われます。人数配分はこれでよいのでしょうか。

野田会長 市民は多く見えますが、回答率は5割ぐらいですので、子どもの方が回答数は

多くなりそうです。

事務局

アンケート調査に関しては、市民は42万人のうち3,700人です。子どもは、小中学生は3.5万人のうちの3,150人ですので、人口あたりの送付数はかなり子どもの方が高くなります。また、子どもたちに直接意見を聞ける場として、ヒアリング調査も実施していきたいと考えています。

野田会長

H委員より、あまりにも枠が決まっているのではないかと、国は羅針盤的な方向性を示すものとなっているので、豊田もそれを考慮したらどうかという意見についてはどうかでしょうか。

D委員

担い手ではなく創り手という視点について、P5の教育を通して目指す3つの姿として、未来志向の表現を入れた人物像を入れてはどうかと思います。

「人生を幸せに感じる」が教育の方向性かと問われると、少し飛びすぎていて、例えば、未来をわくわく感じられるかなど、そういう未来志向の表現にしてはいいかがでしょうか。

K委員

アンケートは任意回答のイメージを与えがちで、答えても答えなくてもよいという印象があります。また、回答項目が多いと感じている人が多い気がします。では、親や一般の人がどうしたら自分事に考えてもらえるかが、今回の方針にもかかわってるところです。

今まで描いてきた成功法則が通じない中で、親もどうやって子どもを導いていけばいいのか、学校に対して、教育に対して、どのようなことを期待するのか、みんなで協力したいと思える方針にするのが重要かと思います。

自分事としてとらえられるようなキーワード、世代ごと、教育の担い手、だれが教育をするのか、学力をあげるのが教育なのか、豊田市がどのような子どもを育てたいのかというキーメッセージを明確に示していくことが重要ではないでしょうか。

野田会長

他の自治体をみると、市民の回答率は3割程度です。豊田は5割で市民の関心は高いと思われます。

アンケート調査の前文などに、答えると豊田の教育がよくなるという趣旨の文章を入れてはいかがでしょうか。

C委員

社会教育を含む、すべての市民を対象とした計画という理解でよろしいでしょうか。

教育大綱との関係性の部分と、教育委員会の行政計画についての、2階建てになっていると思いますが、その整理は本審議会判断してよいのでしょうか。

事務局

今回は、大人の社会教育も含めていきます。

大綱は、総合教育会議が考えていき、来年の春までに改定を予定しています。

野田会長

大綱を横目でみながらやらないといけないということですね。

C委員

大綱にどの程度、この審議会の意見を反映できるかにもよりますが、この計画の在り方自体は議論をして、大綱にどこまで盛り込むことができるかという強いメッセージを審議会として発していないと、議論はしたもの、大綱はこう決定しましたとなってしまって、それまでの議論は意味がなくなってしまう。こちらの議論をしっかり積み上げていくという形を、共有していくといいと思います。

野田会長

11月の会議で検討をして、大綱の検討に盛り込んでいくということでしょう

か。

事務局
野田会長
H 委員

11 月の第 2 回でご意見をいただくと、大綱の議論に反映できます。

第 3 回の会議の時点では、大綱が固まっているので、第 2 回で検討ですね。

検討事項のひとつは、教育大綱の行動計画なので、教育行政計画になっているということです。

なお、教育委員会に社会教育の担当部署がありますか。豊田市は、交流館が首長部局に移管していて、社会教育を教育行政計画が扱うことが可能でしょうか。教育振興基本計画として作られているかということ、そうっていないのではないかとということも含めて、計画の在り方を考えなければいけないのではないかと思います。

羅針盤の事例としては、東京都杉並区のビジョン 2024 があります。計画は視点や基本理念など方向性のみを示していて全 7 ページです。主語は私たちで、区民が主役です。行政の事業計画はビジョンと社会情勢を踏まえて、毎年度立てるというものです。

行政が計画を立てて、実現していくのが、これまでの社会のあり方でしたが、つくっても結局実現できなかったり、体系上もズレがありました。議論しても大綱に反映されないということもあります。

事務局
社会教育の部署は、生涯活躍部市民活躍支援課となります。交流館も地方自治法上の施設として生涯活躍部が所管をしています。

事務局
前回の計画策定時も、教育振興基本計画を作成するかどうか、教育行政計画の範囲などの議論がありました。また、計画に載っていない大きな事業も進めているのが現状で、内容もかなり変わっています。計画にきっちり書き込むことの難しさを実感しています。また、細かく指標を設定していますが、それが有効かも検討したいと考えています。

教育大綱という大きな豊田市の枠組みがあり、そこには、文化、スポーツ、社会教育が含まれています。大綱は、基本理念、めざす人物像、めざすべき教育の姿など大きなことが対象です。内容に関しては、総合教育会議で市長と教育委員と協議をして定めています。

H 委員は、行政計画には理念的な部分をしっかりと示したものを豊田市として作っていき、大局的なところは審議会、細かなことは事務局で議論したらどうか、というご主旨でいいでしょうか。

11 月に向けて、教育行政計画の在り方を教育委員会の中で整理させていただく時間をいただけないでしょうか。

野田会長
大綱は、市長の意向が強い場合は、審議会が意見をあげていくことが厳しい部分があるかもしれませんが、11 月までに議論、整理し、次回は方向性を協議していきます。

事務局
議会の議決が必要な計画ですので、審議会のスケジュールを考慮すると、11 月までの間に委員の皆様の意見を別途伺う機会を設けさせていただく可能性もあります。ご協力いただければと思います

野田会長
11 月までにみなさんのご協力をお願いします。

事務局
事務局で一度確認をしまして、後日改めてご報告させていただきます。

野田会長
以上で、本日の議題につきましては、すべて終了しました。

委員の皆様方には、長時間にわたり、議事の進行にご協力をいただき、誠にありがとうございました。

9 その他、閉会

事務局 (今後の審議会の日程について説明)

11月までに何かしらのご意見を伺うことがあるかと思いますが、よろしくお願いいたします。また、机の上に審議会に関する意見の用紙があります。お気づきの点がありましたらご提出をお願いします。

野田会長 それでは、以上をもって第1回豊田市教育行政計画審議会を終了とします。

以 上

この会議録は会議の内容と相違ないことを証するため、ここに署名する。

令和6年 9月 5日

豊田市教育行政計画審議会会長

野田 敦 敬

豊田市教育行政計画審議会委員

井村 美 穂